

8信金 事業承継を支援

中小向け ネットワーク本格稼働

帯広、北見など道内の8信金が、中小企業の実業承継を後押しする「しんきん支援ネットワーク」を立ち上げ、10月から本格的な活動を始めた。信金の顧客網を生かし、企業を売りたい人と買いたい人の情報を地域を越えて交換し、企業存続につなげる。北海道信用金庫協会によると、複数の信金が連携する事業承継の支援組織は道内初。

道内初 情報交換しM&A

参加信金はほかに北星、北空知、遠軽、網走、大地みらい、釧路。事業承継のコンサルテイングを手がける一般社団法人「北海道事業承継センター」（札幌）とともに、4月にネットワークを立ち上げた。

これまでは各信金それぞれが経営者の相談を受け、同センターが専門的な立場から助言などを行ってきた。10月1日に始めたサービスでは、信金が売り手と

支援しきれないことも多い。経営者が本当に求めている事業承継を広域連携によって実現したいとする。ネットワークの代表を務める、事業承継センターの吉川孝代表理事は「地域どの信頼関係が深い信金こそ、事業承継では強みを生かせる」と期待する。

買い手の情報を収集。信金同士、情報交換し、財務内容などの問題があれば改善させた上で引き合わせ、企業の合併・買収（M&A）を支援する。来年3月末までに80社の買い手を集める目標だ。

帯広信金の三品幸広経営コンサルテイング室長は「単独の信金ではM&Aを

「サポートネットワーク」を各地で発足させるほか、道と北洋銀行、北海道銀行が、来年2月にも事業承継支援ファンドを設立する予定。